

「みえ高校生県議会」 今後の対応等に関する答弁の概要

戦略企画雇用経済常任委員会

学校名	質問項目等	答弁した委員長	今後の対応等に関する答弁の概要	関係する委員会
<p>学法津田学園 高校</p>	<p>○三重県のPR活動に関して 若い世代に対して、「将来三重県に住みたい」と思うような三重県の魅力を、どのようにアピールしていくのか。</p>	<p>石田委員長 (戦略企画雇用経済)</p>	<p>・私たちの委員会では、若者や高齢者に対するSNSや新聞等のメディアの有効性、対象と媒体に着目した広聴広報のベストミックスなど、広聴広報の充実について重点的に調査することとしている。</p> <p>・民間における広報の先進事例の視察を行い、自治体とは異なった視点での企業広報のあり方などの研究を進めていくこととしており、こうした視察で得た成果をもとに、私たちの委員会では新しい広報媒体の活用の提案や、思い切った切り口による新たな広報活動の展開など、従来の県広報の枠組みにとどまらないような議論を深めていきたいと考えている。</p>	<p>戦略企画雇用経済</p>
<p>暁高校</p>	<p>○「伊勢志摩サミット」後のグローバル化について 県は、国際化についてどのようなことを推進していくのか。 また、サミット効果が見込めなくなった場合の政策はどのようなものを考えているのか。</p>	<p>中嶋委員長 (サミットを契機とした地域の総合力向上調査)</p>	<p>・御提案にあったようなSNSや、例えばトリップアドバイザーなどのスマホアプリ、外国のマスコミ関係者を対象としたプレスツアーなどを活用して、伊勢志摩、三重県の魅力を発信し続け、海外から観光客や国際会議を呼び込み、観光産業の稼ぐ力を引き出し、強化する取組を進めていけるよう県の担当部局へ働きかけていく。</p> <p>また、ジュニアサミットをはじめ、三重県の若者や子どもたちが世界との交流や理解を深める機会を得ることができたが、これを一過性に終わらせることなく、高校生サミット定期開催など、公立私立関係なく、グローバル社会で活躍できる次世代の育成にも引き続き力を入れていくべきだと考える。</p> <p>サミットのレガシーを十分に生かし、三重県が国際的にもその存在感を高めていく取組をさらに加速化させていきたいと思う。</p> <p>・三重県にとっては、ポストサミットこそが地域の総合力が試される真の機会となる。それは与えられるものではなく、私たちが皆でつくり上げていくものである。こうした観点から、今後とも特別委員会で議論を深めていきたいと考えている。</p>	<p>戦略企画雇用経済 教育警察 サミットを契機とした地域の総合力向上調査</p>

名張西高校	<p>○伊賀地区の観光政策について</p> <p>伊賀地区の観光基盤や道路・鉄道の利便性向上について、現状の取組状況と今後の進め方について伺いたい。</p>	<p>下野委員長 (防災県土整備企業)</p>	<p>・交通アクセスが便利になることで観光客が増える場合もあれば、観光客が増えることで交通需要が生まれ、利便性が高まる場合もあり、交通と観光は相互に影響を及ぼすものである。 住んでいる人にとっても訪れる人にとっても、よりよい交通基盤が整えられるよう、委員会でも今後もしっかりと検討していきたいと思っている。</p>	<p>総務地域連携 戦略企画雇用経済 防災県土整備企業</p>
	<p>伊賀の忍者や赤目四十八滝はサミット中にどのようなPRがされたのか。また、サミット終了後はどのようにPRされるのか。</p>	<p>石田委員長 (戦略企画雇用経済)</p>	<p>・伊賀地区は忍者発祥の地域であり、これからも国内外から人を呼び込むための切り札として、発信力強化を図っていきたいと考えている。</p>	<p>戦略企画雇用経済</p>
三重高校	<p>○交流人口の増加による地域活性化</p> <p>交流人口を増やすための補助金を新しく作ることはできないか。新たな政策を行うことはできないか。</p>	<p>石田委員長 (戦略企画雇用経済)</p>	<p>・交流人口の増加に関する新たな取組として、体験・学習旅行にも可能性を感じており、地域と連携しての農家民泊等で台湾や東南アジアから修学旅行や体験旅行を多数受け入れている先進地を委員会で視察することとしており、視察で得た成果をもとに委員会で議論を深めていきたいと考えている。</p>	<p>戦略企画雇用経済</p>